

## 第2調査の概要

### 1 調査目的

県内の特殊教育諸学校、小学校、中学校の特殊学級及び通級指導教室における個に応じた指導に関する実態を把握するとともに、その諸問題を明らかにし、個に応じた指導方法の望ましい在り方を探る。

### 2 調査方法

#### (1) 調査対象

小学校及び 中学校	精神薄弱特殊学級担当者（抽出）	114人
	病弱、難聴、言語障害、情緒障害特殊学級担当者（全員） 通級指導教室担当者（全員）	119人
	特殊教育諸学校（県立、市立、国立）部主事（全員）	74人
	合 計	307人

精神薄弱特殊学級担当者については、校種や地域の偏りがないよう全担当者の20%を抽出した。

(2) 実施時期 平成7年9月20日から10月9日まで

(3) 調査形式 質問紙法

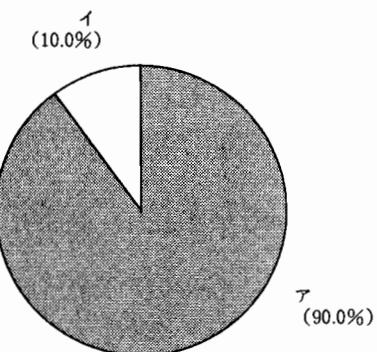
### 3 調査結果の分析と考察

#### (2) 個別指導目標について

##### ア 設定の有無

個別指導目標を設定していますか。

ア 設定している。  
イ 設定していない。



個別指導目標の設定状況は、設定していない病弱特殊学級と79%であった精神薄弱特殊学級を除いて、90%以上が設定している状況である。

（難聴、言語特殊学級95%，情緒障害特殊学級92%，通級指導教室100%，盲、聾肢体不自由、病弱養護学校96%，精神薄弱養護学校100%）

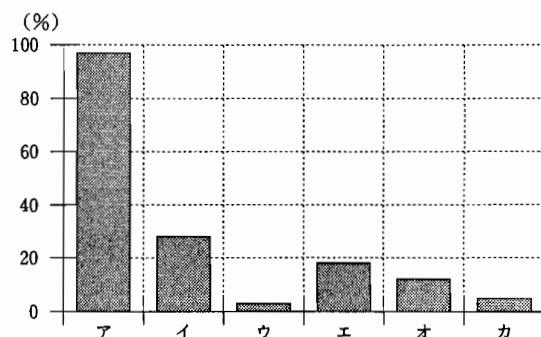
個別指導目標設定が高い割合を示している背景には、学習指導要領において「個に応じた

指導方法の工夫改善」がこれまで以上に強調されたことや個別教育計画（I E P）の研究実践が各地で取り組まれていることなどがあると考える。

#### イ 設定スタッフ

個別指導目標は、どのようなスタッフで設定していますか。（複数可）

- ア 学級担任（副担任を含む）
- イ 担任以外の教師
- ウ 校長・教頭 エ 保護者
- オ 児童生徒本人 カ その他

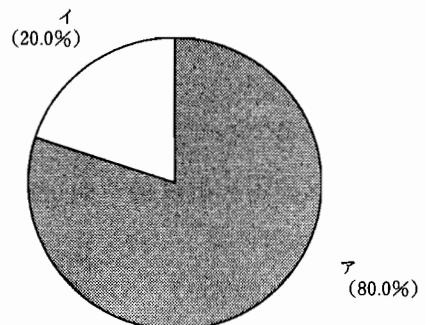


設定スタッフとしては90%以上が担任だけであり、それに担任以外の教師や保護者が続いている。特殊教育諸学校では、担任以外の教師が加わるという回答が40%以上あり、難聴、言語障害及び情緒障害特殊学級並びに通級指導教室では、保護者が加わるという回答が20～30%あり、校種等の違いが見られる。

#### ウ 共通理解の場

個別指導目標の共通理解の場をもっていますか。

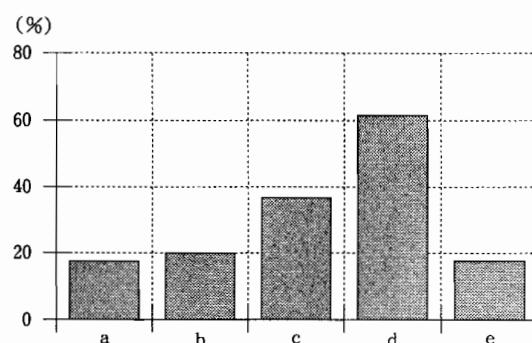
- ア もっている。
- イ もっていない。



#### エ 共通理解の方法

アと答えた方のみ、共通理解の方法についてお尋ねします。

- a 学校全体で b 学部で
- c 学年で d 担任間で
- e その他



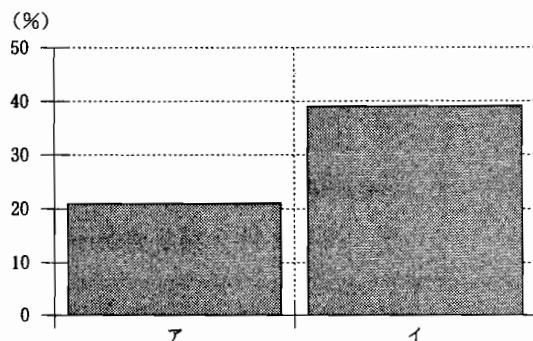
共通理解の場については、精神薄弱特殊学級の69.6%を除いて80%以上がもっている。また、その方法については、担任間、学年、学部の順となっている。

精神薄弱特殊学級では、担任間に加えて学年や学校全体で共通理解を図る割合が高くなっている。一方、特殊教育諸学校では、学部や学年で共通理解を図る割合が高くなっている。この相違は、指導体制の違いからくるものと考えられる。

#### オ 書式の有無

個別指導目標の書式は決まってい  
ますか。

- ア 学校（学部）として
- イ 担任（教科担任を含む）とし  
て

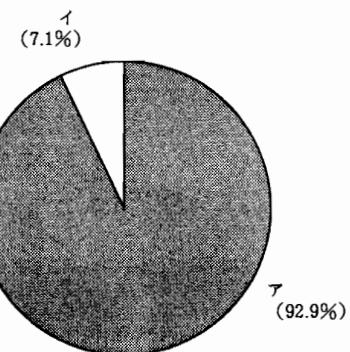


特殊学級及び通級指導教室では、担任独自の書式がほとんどで、特殊教育諸学校では、約60%が学校（学部）としての書式に基づいて取り組んでいる。

#### カ 見直しや変更の有無

個別指導目標の見直しや変更をし  
ていますか。

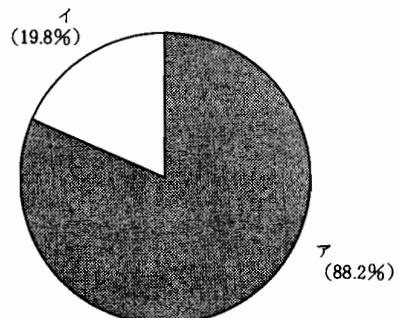
- ア している。
- イ していない。



#### キ 引き継ぎ

個別指導目標の評価を、次年度に  
申し送りしていますか。

- ア している。
- イ していない。

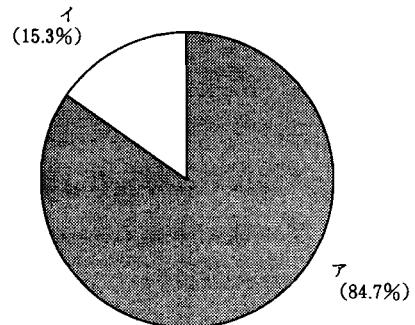


個別指導目標の年度途中の見直しや変更については、特殊教育諸学校、特殊学級共に約90%以上が行っている。また、次年度への申し送りは約80%が行い、校種・障害種による差はあまり見られない。

#### ク 保護者への協力依頼

個別指導目標を、保護者に知らせ協力を依頼していますか。

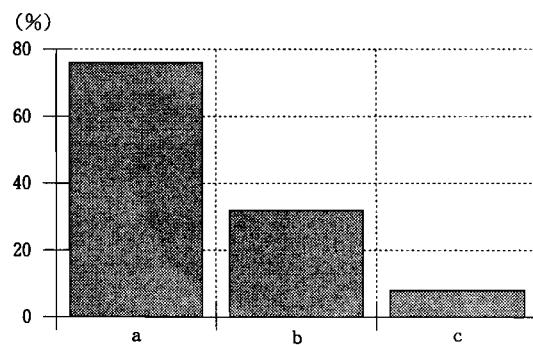
- ア している。
- イ していない。



#### ケ 協力依頼の方法

アと答えた方のみ、その方法についてお尋ねします。

- a 連絡帳、個別面談など随時連絡を取りながら進めている。
- b 年度当初、学期末、年度末に話し合いをもって進めている。
- c その他

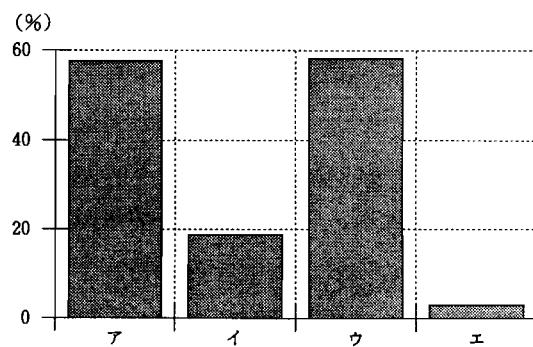


保護者への協力依頼は、全体としては約85%が行っており、特に通級指導教室は100%である。一方、精神薄弱特殊学級と精神薄弱養護学校は70%台でやや低い。協力依頼の方法については、連絡帳、個別面談など随時連絡を取りながら進める方法がどの校種等においても高い割合を示している。

#### コ 設定のための必要条件

個別指導目標を設定するために必要な条件は何ですか。

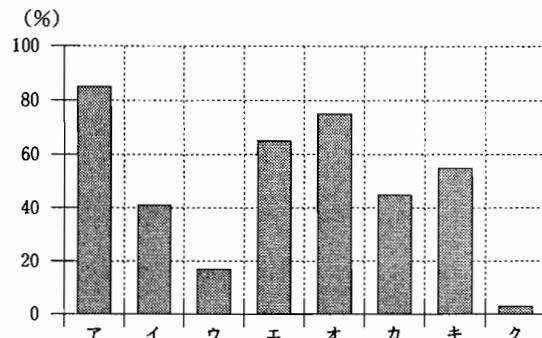
- ア 教師間の共通理解
- イ 校内の体制 ウ 教師の研修
- エ その他



## サ 設定のための必要資料

個別指導目標を設定するために必要な資料は何ですか。

- ア 諸検査の資料
- イ 専門機関からの資料
- ウ 進路に関する調査資料
- エ 生育歴・家庭環境などの資料
- オ 指導記録 カ 親の要望
- キ 個別指導目標に基づく具体的な実践資料
- ク その他



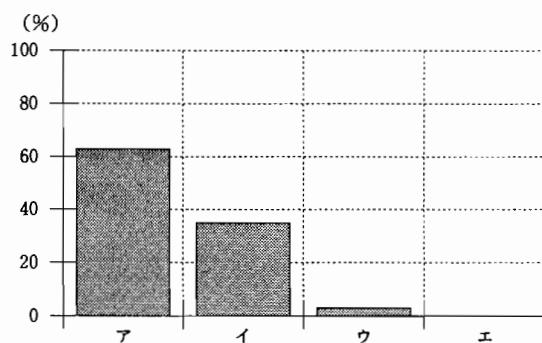
個別指導目標の設定に必要な条件は、教師間の共通理解と教師の研修があげられている。また、設定に必要な資料は、諸検査の資料、生育歴・家庭環境などの資料指導記録、具体的な実践事例などがあげられている。

## (2) 個別指導について

### ア 個別指導実施の有無

1対1による個別指導を実施していますか。

- ア 年間を通して計画的に実施している。
- イ 必要な時に実施している。
- ウ 必要性を感じ、実施を検討している。
- エ 必要性を感じていない。



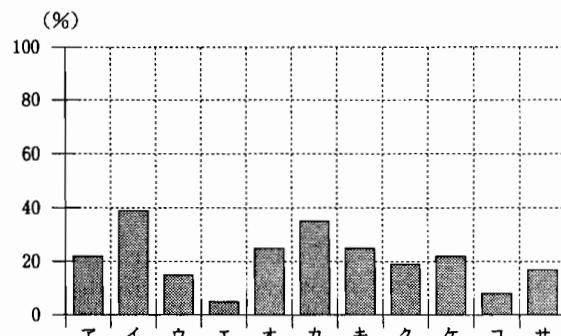
難聴、言語障害及び情緒障害特殊学級並びに通級指導教室では、ほとんど年間を通して実施している。精神薄弱特殊学級や特殊教育諸学校では、年間を通して実施しているという回答と、必要な時に実施しているという回答がほぼ同じ割合である。

## イ 個別指導実施上の問題点

個別指導を進める上で、特に問題になっている項目を3つあげてください。

- ア 教室が不足している。
- イ 指導者の数が不足している。
- ウ 教師の持ち時間数がアンバランスである。
- エ 指導者が当該免許を持っていない。
- オ 児童生徒が母集団に戻った時に、人間関係がスムーズにいかないことがある。
- カ 集団の中で学習した方が、効果的な場合もある。
- キ 人間関係が単調になり、大きな集団での対応ができにくくなる。
- ク 教師用教科書、指導書が不足している。
- ケ 指導者間の連携が取りにくい。
- コ 保護者の理解が得られない。
- サ その他

特殊学級や通級指導教室では、オカ、キが特に高い割合を示し、特殊教育諸学校では、ア、イ、ケが高い割合を示している。このような違いの背景には、交流学習等の環境の違いもあると考えられる。



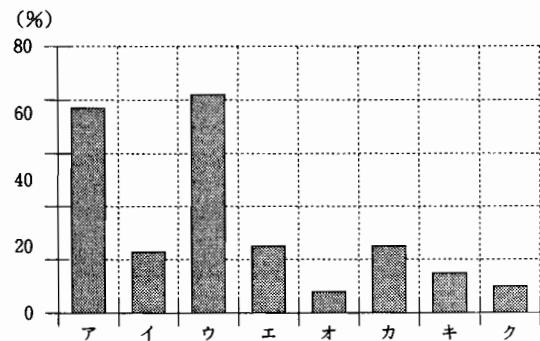
### (3) 集団の中で個を配慮した指導について

#### ア チーム・ティーチングのメリット

チーム・ティーチングによる指導のメリットは何ですか。(複数可)

- ア 児童生徒の実態に合った指導ができる。
- イ 多種多様な教材・教具が準備できる。
- ウ 複数の教師による児童生徒の多面的な見方や評価ができる。
- エ 担任以外の児童生徒の理解が深まる。
- オ 教師の指導力が向上する。
- カ 教師の専門性や個性が生かせる。
- キ 教師間の人間関係が緊密になる。
- ク 保護者の期待や信頼感が深まる。

メリットについては、校種による大きな差は見られず、児童生徒の多面的な見方や評価ができること、実態に合った指導ができること、担任以外の児童生徒の理解が深まること、教師の専門性や個性が生かせることなどがあげられている。



#### イ ティーム・ティーチングのデメリット

ティーム・ティーチングによる指導のデメリットは何ですか。(複数可)

- ア 指導法の統一や指導の一貫性が難しい。
- イ 教材・教具の準備に時間がかかる。
- ウ 児童生徒の評価の観点が不明確になることが多い。
- エ 担任している児童生徒との人間関係が希薄になる。
- オ 教師の指導力が低下する。
- カ 教師の役割分担に対する責任感が薄くなる。
- キ 教師の人間関係が悪くなる。
- ク 一部の教師（主たる指導者）の負担が大きい。
- ケ 共通理解のための打ち合わせの時間確保が難しい。
- コ 保護者の不安が大きくなる。

指導法の統一や指導の一貫性が難しいこと、共通理解のための打ち合わせの時間確保が難しいことの2点が高い割合を示している。さらに、精神薄弱養護学校では、教師の役割分担に対する責任感が薄くなることや一部教師の負担が大きくなるという回答が50%以上を示している。

